

安全データシート

【製品名】セル・ケコミパネル（ベース材）

1. 製品及び会社情報

【製品情報】

製品名：セル・ケコミパネル（ベース材）

一般名：繊維強化セメント板(フレキシブル板)

用途：階段のケコミ部分用簡易施工材

【会社情報】

会社名：ダイセルファインケム株式会社

所在地：東京都中央区日本橋馬喰町 2-1-15

担当部門：ポリマー営業部

電話番号：03-5643-3582

FAX番号：03-5643-3586

緊急連絡先：同上

2. 危険有害性の要約

【GHS分類】

物理化学的危険性	可燃性固体	区分外
	自己反応性化学品	区分外
	自然発火性固体	区分外
	自己発熱性化学品	区分外
	水反応可燃性化学品	区分外
	酸化性固体	区分外
	有機過氧化物	区分外
	金属腐食性物質	区分外

記載のないものは分類対象外又は分類不可。

【GHSラベル要素】

絵表示又はシンボル：なし

注意喚起語：なし

危険有害性情報：皮膚への刺激のおそれ

切断加工等で生じる粉じんの長期又は反復吸入による、じん肺のおそれ

(なお、切断加工等を行わず据付け、組込み作業のみを行う場合には粉じんの発生はありません)

注意書き：

【安全対策】 必要に応じて呼吸用保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けること。

粉じんを吸入しないこと。

適切な保護手袋を使用すること。

取扱い作業場所で飲食又は喫煙をしないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

【応急措置】 気分が悪いときは、医師の手当て、診断を受けること。

【保管】 切断加工等で粉体となったものは、プラスチック袋等に詰めて飛散しないようにすること。

水に濡らさないこと。

【廃棄】 都道府県知事又は市長の許可を受けた廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品、混合物：混合物

化学名：

	CAS 番号	官報公示 整理番号	含有量 (%)	安衛法 1) 通知対象物質	P R T R 法 2)	
					第一種	第二種
けい酸カルシウム	1344-95-2	1-194	非公開	非該当	非該当	非該当
有機繊維	—	対象外	非公開	非該当	非該当	非該当

1)労働安全衛生法

2)特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律

注)主成分及び上記法律 1)、2)の対象物質、その他危険有害性があると思われる原材料について表中に記載

4. 応急措置

吸入した場合：被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪いときは、医師の手当て、診断を受けること。

皮膚についた場合：付着した部分を石鹼水で洗浄し、やや熱めの温湯で洗い流すこと。

外観に変化がみられたり痛みが続く場合は、直ちに医師の手当てを受けること。

気分が悪いときは、医師の手当て、診断を受けること。

眼に入った場合：異物感がなくなるまで清水で洗浄すること。眼をこすらないこと。

目の刺激が持続する場合は、医師の手当て、診断を受けること。

気分が悪いときは、医師の手当て、診断を受けること。

誤飲した場合：口をすすぐこと。

気分が悪いときは、医師の手当て、診断を受けること。

5. 火災時の措置

不燃性なので、火災時の措置は特にない。

6. 漏出時の措置

本製品が壊れ、床面等に粉じんがこぼれた場合は、速やかに粉じんが飛散しないように静かに清掃し、空容器や袋等に詰めて、通常の産業廃棄物と同様の扱いとする。

7. 取扱い及び保管上の注意

[取扱い上の注意]

切断加工等を行う場合は、粉じんが発生するおそれがあるので、次の点に注意すること。

- ・呼吸用保護具を着用すること。
- ・電動工具を使用する場合は、局所排気装置・集じん装置を設置すること。
- ・作業衣等に付着した場合は粉じんの飛散に留意して取り除くこと。
- ・取扱い後は、うがい及び手洗いを励行すること。

また、使用済みの本品を取り換える際に、粉じんが発生するおそれがあるので、作業時には湿潤化を推奨する。

[保管上の注意]

水濡れ厳禁とし、常温常湿の屋内保管とする。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度：質量濃度(吸入性粉じん)…3.0 mg/m³

許容濃度：日本産業衛生学会(2009)許容濃度の勧告値：

遊離けい酸 10%未満の鉍物性吸入性粉じん… 1 mg/m³，総粉じん… 4 mg/m³

設備対策：室内で取扱う場合は、管理濃度以下にするために十分な能力を有する換気装置を備える。

保護具：

- ・呼吸用保護具

切断加工等を行う場合は、作業に適した呼吸用保護具を着用する必要がある。
なお、防じんマスクを使用する場合は、取替え式と使い捨て式のいずれでもよいが、必ず国家検定合格品を使用すること。また、防じんマスクの装着にあたっては、顔面への密着の状態に特に留意するとともに、取替え式防じんマスクについては、フィルタの点検と交換、吸排気弁の劣化の確認等の保守管理を適切に行なうこと。

- ・保護めがね

必要に応じて、ゴーグル、サイドシール付き保護めがね等、作業に適した保護具を使用すること。

- ・手袋・作業衣

手袋、長袖の作業衣等、作業に適したものを使用し、皮膚が露出しないようにする。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態：固体、板状

色：灰色

見掛け密度：1.5～1.8 g/cm³

引火点：非引火性

発火点：なし

10. 安定性及び反応性

通常の保管及び取扱いの条件においては安定である。

11. 有害性情報

- | | |
|-----------------------|---|
| 急性毒性(経口) | : データ不足のため分類不可 |
| 急性毒性(経皮) | : データ不足のため分類不可 |
| 急性毒性(吸入：気体) | : 分類対象外 |
| 急性毒性(吸入：蒸気) | : 分類対象外 |
| 急性毒性(吸入：粉じん) | : データ不足のため分類不可 |
| 急性毒性(吸入：ミスト) | : 分類対象外 |
| 皮膚腐食性・刺激性 | : 水に濡れた状態で長時間触れると皮膚が荒れることがあるが、データ不足のため分類不可 |
| 眼に対する重篤な損傷・刺激性 | : 物理的刺激があるが、データ不足のため分類不可 |
| 呼吸器感作性又は皮膚感作性 | : データ不足のため分類不可 |
| 生殖細胞変異原性 | : データ不足のため分類不可 |
| 発がん性 | : データ不足のため分類不可 |
| 生殖毒性 | : データ不足のため分類不可 |
| 特定標的臓器・全身毒性
－単回ばく露 | : データ不足のため分類不可 |
| 特定標的臓器・全身毒性
－反復ばく露 | : 長期間、多量に吸入したとき、じん肺等を起こすおそれがあるがデータ不足のため分類不可 |
| 吸引性呼吸器有害性 | : データ不足のため分類不可 |

12. 環境影響情報

水生環境有害性(急性)：データ不足のため分類不可。

水生環境有害性(慢性)：データ不足のため分類不可。

13. 廃棄上の注意

廃棄する場合は、周辺環境中に粉じんが飛散しないように注意する。

本製品を事業活動に伴って廃棄する場合は、産業廃棄物となり、廃棄物の分類は“がれき類”に該当するので、“廃棄物の処理及び清掃に関する法律”に基づき適切な処理を行う。なお、本製品は安定型処分場で処理できる廃棄物である。

1 4. 輸送上の注意

危険性はないが、輸送中の包装の破損等によって粉じんが飛散しないように注意する。

国連分類：該当なし

国連番号：該当なし

1 5. 適用法令

労働安全衛生法 : 適用なし

粉じん障害防止規則：鉍物(本製品)を裁断し、彫り、又は仕上げする場所における作業
(粉じん則別表1の6号)

じん肺法 : 鉍物(本製品)を裁断し、彫り、又は仕上げする場所における作業
(じん肺法施行規則別表6号)

毒物及び劇物取締法：適用なし

特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律 (PRTR 法)
: 適用なし

1 6. その他の情報

[参考文献]

- 1) 産業医学 第51巻 第5号：(社)日本産業衛生学会(2009)
- 2) ACGIH 2009 Chemical Substances Threshold Limit Value (2009)
- 3) 発がん性物質の分類とその基準 (第7版)：(社)日本化学物質安全・情報センター (2007)
- 4) 化学物質総合情報提供システム：独立行政法人製品評価技術基盤機構(NITE)

この情報は新しい知見に基づき、改定されることがあります。

記載内容のうち、含有量、物理/化学的性質等の情報は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できうる資料・データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅したわけではありません。

作成日 2016/02/18

改訂日 2017/04/13

安全データシート

【製品名】セル・ケコミパネル（塗布モルタル）

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 @CEL-KEKOMIMORUTARU

製品コード @CEL-KEKOMIMORUTARU

整理番号 dfc-polymer3045-1

会社名：ダイセルファインケム株式会社

所在地：東京都中央区日本橋馬喰町 2-1-15

担当部門：ポリマー営業部

電話番号：03-5643-3582

F A X 番号：03-5643-3586

緊急連絡先：同上

推奨用途及び使用上の制限 一般工業品

2. 危険有害性の要約

GHS分類

健康有害性

急性毒性（吸入：蒸気） 区分4

発がん性 区分1A

"特定標的臓器毒性（単回ばく露） 区分1（呼吸器系）"

"特定標的臓器毒性（反復ばく露） 区分1（呼吸器系 腎臓）"

"上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。"

GHSラベル要素



絵表示

注意喚起語 危険

危険有害性情報 H332 吸入すると有害

H350 発がんのおそれ

H370 呼吸器系の障害

H372 長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器系、腎臓の障害

注意書き

安全対策

使用前に取扱説明書を入手すること。(P201)

"すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。(P202)"

"ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること(P261)"

取扱い後はよく手を洗うこと。(P264)

"この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)"

"屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。(P271)"

保護手袋を着用すること。(P280)

応急措置

"吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)"

"ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。(P308+P311)"

"ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。(P308+P313)"

"気分が悪い時は、医師に連絡すること。(P312)"

"気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。(P314)"

特別な処置が必要である。(P321)

保管

施錠して保管すること。(P405)

廃棄

"内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)"

3. 組成及び成分情報

"化学物質・混合物の区別"

混合物

化学名又は一般名

セル・ケコミパネル用モルタル

別名

混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
ポルトランドセメント	68%	特定できない	不明	不明	65997-15-1
二酸化ケイ素	18.2%	SiO ₂	(1)-548	既存	14808-60-7
メチルセルロース	0.1%	特定できない	(8)-186	既存	9004-67-5
エチレン・酢酸ビニルの共重合体	5.6%	特定できない	(6)-6	既存	24937-78-8
エチレングリコール	0.2%	HOCH ₂ CH ₂ OH	(2)-230	既存	107-21-1
酢酸ビニル	0.006%	CH ₂ =CHO COCH ₃	(2)-728	既存	108-05-4
水	7.894%	特定できない	不明	2-(4)-1220	7732-18-5

分類に寄与する不純物及び安定化添加物 情報なし

労働安全衛生法 名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2、施行令第18条の2別表第9）

エチレングリコール（法令指定番号：75）（0.2%）

シリカ（法令指定番号：312）（18.2%）

4. 応急措置

吸入した場合

"空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。"

"ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。"

特別な処置が必要である。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。"

皮膚に付着した場合

水と石鹼で洗うこと。

"皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。"

医師の診断、手当てを受けること。

医師に連絡すること。

特別な処置が必要である。

"気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。"

眼に入った場合

"眼の刺激が持続する場合、医師の診断、手当てを受けること。"

水で数分間注意深く洗うこと。

医師に連絡すること。

特別な処置が必要である。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。

医師の診断、手当てを受けること。

医師に連絡すること。

特別な処置が必要である。

"気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。"

5. 火災時の措置

消火を行う者の保護

"消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。"

6. 漏出時の措置

"人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置"

"直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。"

関係者以外は近づけない。

"作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。"

環境に対する注意事項

"本製品は、水汚染物なので土壌汚染、もしくは排水溝及び排水系及び大量の水に流入することを防止する。"

"封じ込め及び浄化の方法及び機材"

物質を固化して掻き取る。

"本製品は水に浮かぶため火災の危険がある。可能ならば、浮いている製品を封じ込めるよう努める。"

除去後、汚染現場を水で完全に洗浄する。

"蒸気は水噴霧で制御できる。液体が蒸発して更に多くの蒸気を発生させるため、水流はその液体の方に向けないほうがよい。"

"水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。"

"物質を吸込み又は掃き取って廃棄用容器に入れること。"

"不活性材料(例えば、乾燥砂又は土等)で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。"

"掬い取るか、適切な吸収材によって水表面から除去する。分散剤を使用してはならない。"

二次災害の防止策

"すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。"

"滑らかな滑りやすい表面を床上に形成するので、完全に取除くこと。"

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策

"『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。"

安全取扱注意事項

使用前に使用説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
"この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること
"空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排
気用の換気を行うこと。"
排気用の換気を行うこと。
接触、吸入又は飲み込まないこと。
接触回避 『10. 安定性及び反応性』を参照。
衛生対策 取扱い後はよく手を洗うこと。
保 管 安全な保管条件 『10. 安定性及び反応性』を参照。
施錠して保管すること。

8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度(産衛学会)	許容濃度(ACGIH)
ポルトランドセメント	未設定	未設定	TWA 1 mg/m ³ (E, R), STEL -
二酸化ケイ素	未設定	【粉塵許容濃度】(吸入性結晶質シリカ)0.03m	TWA 0.025 mg/m ³ (R), STEL -
メチルセルロース	未設定	未設定	未設定
エチレン・酢酸ビニルの共重合体	未設定	未設定	未設定
エチレングリコール	未設定	未設定	TWA (-), STEL (C 100 mg/m ³ (H))
酢酸ビニル	未設定	未設定	TWA 10 ppm, STEL 15 ppm

設備対策 "本製品を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。"
"高熱取扱いで、工程でガスが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。"
"高熱取扱いで、工程でガスが発生するときは換気装置を設置する。"
"取扱いについては全体換気装置を設置した場所で行う。"
"空気中の濃度を制御するには、一般適正換気で十分である。"
特別な換気要求事項はない。
"本製品を貯蔵又は使用する設備は、眼洗浄施設及び安全シャワーを設置したほうがよい。"
保護具 呼吸器の保護具 "必要に応じて個人用呼吸器保護具を

	使用すること。"
手の保護具	必要に応じて個人用保護手袋を使用すること。
眼の保護具	"必要に応じて個人用の眼の保護具を使用すること。"
皮膚及び身体の保護具	"必要に応じて個人用の保護衣、保護面を使用すること。"

9. 物理的及び化学的性質

外観	形状	その他
	色	灰色
臭い		その他
臭いのしきい（閾）値		知見なし
pH		データなし
融点・凝固点		知見なし
"沸点、初留点及び沸騰範囲"		知見なし
引火点		引火せず
蒸発速度		知見なし
燃焼性（固体、気体）		知見なし
燃焼又は爆発範囲	下限	知見なし
	上限	知見なし
蒸気圧		知見なし
蒸気密度		知見なし
比重（密度）		知見なし
溶解度		知見なし
"n-オクタノール／水分配係数"		知見なし
自然発火温度		知見なし
分解温度		知見なし
粘度（粘性率）		知見なし
動粘性率		データなし
二酸化ケイ素として		
比重（密度）	2.65(20°C/二酸化珪素), 2.653~2.660(石英)	
溶解度	水に不溶, フッ化水素酸以外の酸に溶けない	
メチルセルロースとして		
溶解度	"4~10%水酸化ナトリウム溶液に可溶(置換度 0.1~0.9 (OCH ₃ が 2~16%)), 冷水に可溶(置換度 1.6~2.0 (OCH ₃ が 26.5~32.6%)), 有機溶媒に可溶(置換度 2.4~2.8 (OCH ₃ が 38~43%))"	

エチレングリコールとして

融点・凝固点	-13°C
"沸点、初留点及び沸騰範囲"	198°C
引火点	111°C (ペンスキーマルテンス密閉式)
燃焼又は爆発範囲	下限 3.2% 上限 15.3%
蒸気圧	7Pa (20°C)
蒸気密度	2.1 (air=1)
比重 (密度)	1.11g/cm ³ (20°C)
溶解度	水溶解度：1.00×10 ⁻⁶ mg/L。 "水、エタノール、メタノール、アセトン、グリセリン、 酢酸、ピリジンに自由に混合する。クロロホルム、エ ーテル、ベンゼン、二硫化炭素に難溶。" "n-オクタノール/水分配係数" log Kow=-1.36 自然発火温度 398°C

酢酸ビニルとして

融点・凝固点	<-84°C
"沸点、初留点及び沸騰範囲"	73°C
引火点	-5~-8°C
比重 (密度)	"0.9287(25°C, 20°C), 0.9342(20°C, 20°C), 0.9398(15°C, 20°C)"
溶解度	"水：2.5m l (100m l, 20°C), 0.1m l の水に 100ml 可溶(20°C)"
粘度 (粘性率)	0.432 c P(20°C)

10. 安定性及び反応性

反応性	知見なし。
化学的安定性	知見なし。
危険有害反応可能性	知見なし。
避けるべき条件	知見なし。
混触危険物質	知見なし。
危険有害な分解生成物	知見なし。

11. 有害性情報

急性毒性	経口 "毒性値あり：酢酸ビニル (0.006%) 2900mg / kg、エチレングリコール (0.2%) 4000mg /
------	---

kg"

"分類できない：二酸化ケイ素（18.2%）、エチレン・酢酸ビニルの共重合体（5.6%）、水（8%）、メチルセルロース（0.1%）、ポルトランドセメント、アルミナセメント、スラグセメント、スーパーサルフェートセメントその他これらに類する水硬性セメント（着色してあるかないか又はクリンカー状であるかないかを問わない。）（68%）"

"混合物の急性毒性推定値が3956.291mg/lのため急性毒性（経口）－区分外となるが、分類できない成分が99.9%含まれるため急性毒性（経口）分類できないとした。"

経皮 "毒性値あり：酢酸ビニル（0.006%） 2335mg/kg、エチレングリコール（0.2%） 10600mg/kg"

"分類できない：二酸化ケイ素（18.2%）、エチレン・酢酸ビニルの共重合体（5.6%）、水（8%）、メチルセルロース（0.1%）、ポルトランドセメント、アルミナセメント、スラグセメント、スーパーサルフェートセメントその他これらに類する水硬性セメント（着色してあるかないか又はクリンカー状であるかないかを問わない。）（68%）"

"混合物の急性毒性推定値が9609.322mg/lのため急性毒性（経皮）－区分外となるが、分類できない成分が99.9%含まれるため急性毒性（経皮）－分類できないとした。"

吸入 【mg/L 判定】

"毒性値あり：酢酸ビニル（0.006%） 11.2mg/l"

"分類できない：エチレングリコール（0.2%）、エチレン・酢酸ビニルの共重合体（5.6%）、水（8%）、メチルセルロース（0.1%）、ポルトランドセメント、アルミナセメント、スラグセメント、スーパーサルフェートセメントその他これらに類する水硬性セメント（着色してあるかないか又はクリンカー状であるかないかを問わない。）（68%）"

分類対象外：二酸化ケイ素（18.2%）

"混合物の急性毒性推定値が11.2mg/lのため急性毒性（吸入：蒸気）－区分4とした。"

【PPM 判定】

"毒性値あり：酢酸ビニル（0.006%） 3184ppm"

"分類できない：エチレングリコール（0.2%）、エチレン・酢酸ビニルの共重合体（5.6%）、水（8%）、メチルセルロース（0.1%）、ポルトランドセメント、アルミナセメント、スラグセメント、スーパーサルフェートセメントその他これらに類する水硬性セメント（着色してあるかないか又はクリンカー状であるかないかを問わない。）（68%）"

分類対象外：二酸化ケイ素（18.2%）

"混合物の急性毒性推定値が3184ppmのため急性毒性（吸入：蒸気）－区分4とした。"

"分類できない：酢酸ビニル（0.006%）、エチレングリコール（0.2%）、二酸化ケイ素（18.2%）、エチレン・酢酸ビニルの共重合体（5.6%）、水（8%）、メチルセルロース（0.1%）、ポルトランドセメント、アルミナセメント、スラグセメント、スーパーサルフェートセメントその他これらに類する水硬性セメント（着色してあるかないか又はクリンカー状であるかないかを問わない。）（68%）"

データなし。

"皮膚腐食性及び皮膚刺激性"

区分2：酢酸ビニル（0.006%）

区分3：エチレングリコール（0.2%）

"分類できない：二酸化ケイ素（18.2%）、エチレン・酢酸ビニルの共重合体（5.6%）、水（8%）、メチルセルロース（0.1%）、ポルトランドセメント、アルミナセメント、スラグセメント、スーパーサルフェートセメントその他これらに類する水硬性セメント（着色してあるかないか又はクリンカー状であるかないかを問わない。）（68%）"

"分類結果は皮膚腐食性及び皮膚刺激性－区分外となる"

が、分類できない成分が99.9%含まれるため皮膚腐食性及び皮膚刺激性—分類できないとした"

"眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性"

区分2：酢酸ビニル（0.006%）

区分2B：エチレングリコール（0.2%）

"分類できない：二酸化ケイ素（18.2%）、エチレン・酢酸ビニルの共重合体（5.6%）、水（8%）、メチルセルロース（0.1%）、ポートルンドセメント、アルミナセメント、スラグセメント、スーパーサルフェートセメントその他これらに類する水硬性セメント（着色してあるかないか又はクリンカー状であるかないかを問わない。）（68%）"

"分類結果は眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性—区分外となるが、分類できない成分が99.9%含まれるため眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性—分類できないとした。"

"呼吸器感作性又は皮膚感作性"

"分類できない：酢酸ビニル（0.006%）、エチレングリコール（0.2%）、二酸化ケイ素（18.2%）エチレン・酢酸ビニルの共重合体（5.6%）、水（8%）、メチルセルロース（0.1%）、ポートルンドセメント、アルミナセメント、スラグセメント、スーパーサルフェートセメントその他これらに類する水硬性セメント（着色してあるかないか又はクリンカー状であるかないかを問わない。）（68%）"

データなし

区分外：エチレングリコール（0.2%）

"分類できない：酢酸ビニル（0.006%）、二酸化ケイ素（18.2%）、エチレン・酢酸ビニルの共重合体（5.6%）、水（8%）、メチルセルロース（0.1%）、ポートルンドセメント、アルミナセメント、スラグセメント、スーパーサルフェートセメントその他これらに類する水硬性セメント（着色してあるかないか又はクリンカー状であるかないかを問わない。）（68%）"

"分類結果は皮膚感作性—区分外となるが、分類できない成分が99.906%含まれるため皮膚感作性—分類できないとした。"

生殖細胞変異原性	区分2：酢酸ビニル（0.006%） "区分外：エチレングリコール（0.2%）、二酸化ケイ素（18.2%）" "分類できない：エチレン・酢酸ビニルの共重合体（5.6%）、水（8%）、メチルセルロース（0.1%）、ポルトランドセメント、アルミナセメント、スラグセメント、スーパーサルフェートセメントその他これらに類する 水硬性セメント（着色してあるかないか又はクリンカー状であるかないかを問わない。）（68%）" "分類結果は生殖細胞変異原性－区分外となるが、分類できない成分が81.7%含まれるため生殖細胞変異原性－分類できないとした。"
発がん性	区分1A：二酸化ケイ素（18.2%） 区分2：酢酸ビニル（0.006%） 区分外：エチレングリコール（0.2%） "分類できない：エチレン・酢酸ビニルの共重合体（5.6%）、水（8%）、メチルセルロース（0.1%）、ポルトランドセメント、アルミナセメント、スラグセメント、スーパーサルフェートセメントその他これらに類する水硬性セメント（着色してあるかないか又はクリンカー状であるかないかを問わない。）（68%）" 混合物の成分の発がん性－区分1Aの濃度が18.2%のため発がん性－区分1Aとした。
生殖毒性	"区分外：酢酸ビニル（0.006%）、エチレングリコール（0.2%）" "分類できない：二酸化ケイ素（18.2%）、エチレン・酢酸ビニルの共重合体（5.6%）、水（8%）、メチルセルロース（0.1%）、ポルトランドセメント、アルミナセメント、スラグセメント、スーパーサルフェートセメントその他これらに類する水硬性セメント（着色してあるかないか又はクリンカー状であるかないかを問わない。）（68%）" "分類結果は生殖毒性－区分外となるが、分類できない成分が99.9%含まれるため生殖毒性－分類できないとした。"

"特定標的臓器毒性（単回ばく露）"

酢酸ビニル（0.006%）

区分3（麻酔作用、気道刺激性）

エチレングリコール（0.2%）

区分1（呼吸器、心臓、腎臓、中枢神経系）

二酸化ケイ素（18.2%）

区分1（呼吸器系）

エチレン・酢酸ビニルの共重合体（5.6%）

分類できない

水（8%）

分類できない

メチルセルロース（0.1%）

分類できない

"ポルトランドセメント、アルミナセメント、スラグセメント、スーパーサルフェートセメントその他これらに類する水硬性セメント（着色してあるかないか又はクリンカー状であるかないかを問わない。）（68%）

分類できない

"混合物の成分の特定標的臓器毒性（単回ばく露）－区分1（呼吸器系）の濃度が18.2%のため特定標的臓器毒性（単回ばく露）－区分1（呼吸器系）とした

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

酢酸ビニル（0.006%）

区分2（呼吸器）

エチレングリコール（0.2%）

区分1（呼吸器、心臓、中枢神経系）

二酸化ケイ素（18.2%）

区分1（呼吸器系、腎臓）

エチレン・酢酸ビニルの共重合体（5.6%）

分類できない

水（8%）

分類できない

メチルセルロース（0.1%）

分類できない

ポルトランドセメント、アルミナセメント、スラグセメント、スーパーサルフェートセメントその他これら

に類する水硬性セメント（着色してあるかないか又はクリンカー状であるかないかを問わない。）（68%）
分類できない

混合物の成分の特定標的臓器毒性（反復ばく露）－区分1（呼吸器系）の濃度が18.2%のため特定標的臓器毒性（反復ばく露）－区分1（呼吸器系）とした。
"混合物の成分の特定標的臓器毒性（反復ばく露）－区分1（腎臓）の濃度が18.2%のため特定標的臓器毒性（反復ばく露）－区分1（腎臓）とした。

吸引性呼吸器有害性

動粘性率：不明

分類できない：酢酸ビニル（0.006%）、エチレングリコール（0.2%）、二酸化ケイ素（18.2%）、エチレン・酢酸ビニルの共重合体（5.6%）、水（8%）、メチルセルロース（0.1%）、ポルトランドセメント、アルミナセメント、スラグセメント、スーパーサルフェートセメントその他これらに類する水硬性セメント（着色してあるかないか又はクリンカー状であるかないかを問わない。）（68%）

データなし

二酸化ケイ素として

急性毒性：経口

分類に適したデータが見つからず、データ不足のため分類できない。

急性毒性：経皮

データなし。

"急性毒性：吸入（気体） GHS の定義における固体。

"急性毒性：吸入（蒸気） 硬い結晶質の固体であり、常温での蒸気圧は極めて低いと考えられ、分類対象外とした。

"急性毒性：吸入（粉じん）

データなし。

"急性毒性：吸入（ミスト）

データなし。

"皮膚腐食性及び皮膚刺激性

データなし。

"眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

SITTIG（4th, 2002）に眼刺激性を示す記載があるが、裏付けとなるデータが見つからず、データ不足のため

分類できない。

"呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性：データなし。

皮膚感作性：データなし。

生殖細胞変異原性

in vivo 変異原性のマウスの骨髄小核試験が陰性

(IARC68, 1997; CICAD24, 2000; DFGOT vol.14, 2000)であったことから、区分外とした。なお、OECDガイドラインにはない特殊な in vivo 試験系(気管内投与されたラットの肺上皮細胞における hprt 変異の測定)において突然変異陽性を示す(炎症作用による可能性あり)など、CICAD24 (2000)では「試験結果が相反しており、遺伝毒性の評価はまだ確定していない」とされている。また、in vitro 変異原性においては、Ames試験のデータはなく、染色体異常試験で陰性、小核試験で陽性の知見がある(IARC68, 1997; CICAD24, 2000; DFGOT vol.14 2000)。

発がん性

"IARC68 (1997) は 1、NTP RoC (11th, 2005) は K、産衛学会勧告 (2005) は 1 に分類しており、区分 1A とした。

生殖毒性

データなし。

"特定標的臓器毒性 (単回ばく露)

反復暴露に比べるとデータが大幅に少ないが、ヒトにおいて短期暴露でも吸入濃度が高い場合は呼吸器系に影響を及ぼすとの記述が IARC68 (1997)、SITTIG (4th, 2002)、DHP (13th, 2002) にある。IARC68 (1997) は Priority 1 文書であるため、区分 1 (呼吸器系) とした。

"特定標的臓器毒性 (反復ばく露)

Priority 1 文書の CICAD24 (2000)、IARC68 (1997)、DFGOT vol.14 (2000)、ACGIH-TLV (2005) に、ヒトにおいて呼吸器系、腎臓に影響を及ぼすとの記述があり、区分 1 (呼吸器系、腎臓) とした。

吸引性呼吸器有害性

データなし。

エチレングリコールとして

急性毒性：経口

ラットを用いた経口投与試験の LD50 4,000-10,200 mg/kg (CICAD 45 (2002)) から区分 5 とした。

急性毒性：経皮	ラットを用いた経皮投与試験の LD50 10,600 mg/kg (CICAD 45 (2002)) から区分外とした。
"急性毒性：吸入（気体）	GHS 定義による液体であるため、ガスでの吸入は想定されず、分類対象外とした。
"急性毒性：吸入（蒸気）	データ不足のため分類できない。
"急性毒性：吸入（粉じん）	データなし。
"急性毒性：吸入（ミスト）	データなし。
"皮膚腐食性及び皮膚刺激性	CICAD 45 (2002) 記載のウサギ、モルモットを用いた皮膚刺激性試験結果「 mild dermal irritation in rabbits and guinea-pigs 」のため区分 3 とした。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	ウサギを用いた眼刺激性試験結果の「エチレングリコール（液体又は蒸気）のウサギの眼への短時間暴露は角膜の永久傷害を伴わない結膜への刺激をもたらす」(CICAD 45 (2002)) から区分 2B とした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性：皮膚感作性：パブリックコメントにある OECD SIDS SIAP の Summary に「エチレングリコール、ジエチレングリコール、トリエチレングリコール、テトラエチレングリコールは皮膚感作性を引き起こさない“EG, DEG, TEG and tetraEG have not induced skin sensitization.”」と記載されていることを確認した。従って、皮膚感作性は「分類できない」から「区分外」へ修正するのが妥当と考える
生殖細胞変異原性	CICAD45 (2002) の記述から、ラットの優性致死試験で陰性、生殖細胞 in vivo 変異原性試験なし、体細胞 in vivo 変異原性試験（染色体異常試験/小核試験）で陰性であることから区分外とした。
発がん性	ACGIH (2001) で A4 に分類されていることから、区分外とした。
生殖毒性	GHS 国連文書 3.7.2.5.5 には、作用機序がヒトには該当しないことが示された場合には、実験動物の生殖に有害影響を生じるような物質でも分類すべきでない」と記載されている。従って、GHS 分類は「区分外」が妥当であると考えられる。

"特定標的臓器毒性（単回ばく露）

ヒトについて、「誤飲後34日以降に意識障害、痙攣、昏迷状態がみられ、血液科学的検査では尿素窒素、クレアチニン及び尿酸が増加、尿検査で蛋白尿及び血尿がみられ、腎障害が認められている。腎生検で尿細管に組織学的変化がみられている。また、肺の軽度なうっ血がみられた」「急性影響は4段階に分けられる。まず暴露後30分から12時間後に起こる中枢神経系への作用、次に暴露12-36時間後に起こる心肺系への影響、さらに第1及び第2段階で死亡(エチレングリコール)を免れた者にみられる腎臓障害、そして中枢神経系の変性である。」(CERIハザードデータ集 97-24(1998))との記載があることから、標的臓器は中枢神経系、腎臓、心臓、呼吸器と考えられた。以上より、分類は区分1（中枢神経系、腎臓、心臓、呼吸器）とした。

"特定標的臓器毒性（反復ばく露）

ヒトについて、「意識消失、眼球振とう」「軽い頭痛と腰痛、上気道の刺激」（環境省リスク評価書 第3巻（2004））との記載があり、実験動物については「肺及び心臓に炎症性の変化」（環境省リスク評価書 第3巻（2004））との記載があることから、標的臓器は中枢神経系、呼吸器、心臓と考えた。なお、実験動物に対する影響は区分1のガイダンス値の範囲でみられた。以上より、分類は区分1（中枢神経系、呼吸器、心臓）とした。

吸引性呼吸器有害性

データなし。

酢酸ビニルとして

急性毒性：経口

"ラットのLD50値 2900 mg/kg（環境省リスク評価第2巻（2003））、1600-3480 mg/kg（CERI・NITE有害性評価書（2006））、2920-3730 mg/kg（ECETOC JACC No.18（1991））、3470 mg/kg（DFGOT vol.21（2005））に基づき、JIS分類基準の区分外（国連分類基準の区分5）とした。

急性毒性：経皮

ウサギのLD50値 2335-7470 mg/kg（CERI・NITE有害性評価書（2006））、2340 mg/kg（ECETOC JACC No.18（1991））、>5000 mg/kg（ECETOC JACC No.18

(1991))、7440 mg/kg (DFGOT vol.21 (2005)) に基づき、区分外とした。

"急性毒性：吸入（気体） GHS の定義による液体である。

"急性毒性：吸入（蒸気） ラットの LC50 値(4時間) 11.4 mg/L(換算値:3184ppm, 環境省リスク評価第2巻 (2003))、3200-4490ppm (CERI・NITE 有害性評価書 (2006))、4000ppm、3680ppm (いずれも ECETOC JACC No.18 (1991))、4650ppm (ATSDR (1992)) に基づき、区分4とした。なお、いずれの LC50 値も飽和蒸気圧濃度 (149211ppmv) の90%より低く、気体と判断し、ppm単位の基準値で分類した。

"急性毒性：吸入（粉じん） データなし。

"急性毒性：吸入（ミスト） データなし。

"皮膚腐食性及び皮膚刺激性

ヒトでは、ボランティアによるパッチテストにおいて刺激性はみられない (ATSDR (1992)) が、本物質の生産工場の労働者において21人中3人に皮膚の刺激性と発疹がみられている (ECETOC JACC No.18(1991))。ウサギを用いた7つの皮膚刺激性試験のうち2つの試験は「刺激性無し」 (ECETOC JACC No.18 (1991)、ATSDR (1992)) であるが、3つの試験でそれぞれ「軽度の刺激」 (CERI・NITE 有害性評価書 (2006))、「軽度の浮腫」 (ATSDR (1992))、「軽度の紅斑」 (DFGOT vol.21 (2005)) がみられ、1つの試験では「浮腫 (ドレイズスコア値4) と皮下出血、皮膚の黄変」 (DFGOT vol.21 (2005)) との記載がある。以上より、区分2とした。なお、皮膚への連続的な接触は「重度の刺激性または水疱形成」 (ECETOC JACC No.18 (1991))、長期暴露は「皮膚への腐食性の影響」 (DFGOT vol.21 (2005)) との記載がある。

"眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

ヒトでは、本物質との直接接触により角膜熱傷がおきたが、48時間以内に回復した例が報告されており、ウサギを用いた眼刺激性試験では「強度の刺激性」 (CERI・NITE 有害性評価書 (2006))、「角膜混濁、発赤、結膜の重度の浮腫 (8日後に消失)」 (DFGOT

vol.21 (2005) との記述から、区分 2 とした。

"呼吸器感作性又は皮膚感作性

"呼吸器感作性：データなし。

皮膚感作性：モルモットを用いた Buehlar 法による皮膚感作性試験の結果、「6/20 匹に陽性の反応が得られた」(CERI・NITE 有害性評価書 (2006)) との記述があるが、DFGOT vol.21 (2005) において「擬陽性反応の可能性を排除できないため、評価できない」との記載があり、分類できないとした。なお、5 年間にわたる 21 人の労働者の医療記録から、「本物質はアレルギー性接触皮膚炎の重要な誘導物質ではないことが示唆される」(ECETOC JACC No.18 (1991)) との記載、また、「本物質と頻繁に強い皮膚接触があった労働者において、アレルギー性の皮膚反応はみられなかった」(DFGOT vol.21 (2005)) との記載がある。

生殖細胞変異原性

"in vivo において、ラットの骨髄を用いた小核試験 (NTP DB (access on 6. 2009))、マウスの骨髄を用いた小核試験 (CERI・NITE 有害性評価書 (2006))、ラットの骨髄を用いた染色体異常試験 (DFGOT vol.21 (2005))、マウスの骨髄を用いた姉妹染色分体交換試験 (CERI・NITE 有害性評価書 (2006)) でそれぞれ陽性結果があり、区分 2 とした。なお、in vitro においては、細菌を用いた復帰突然変異試験で陰性 (CERI・NITE 有害性評価書 (2006)、NTP DB (access on 6. 2009))、ヒトリンパ球を用いた染色体異常試験 (CERI・NITE 有害性評価書 (2006))、マウスリンパ腫細胞を用いた突然変異試験 (CERI・NITE 有害性評価書 (2006))、ヒトリンパ球および CHO 細胞を用いた姉妹染色分体交換試験 (CERI・NITE 有害性評価書 (2006)、NITE 初期リスク評価書 No.60 (2005))、ハムスター培養細胞を用いた形質転換試験 (NITE 初期リスク評価書 No.60 (2005)) でそれぞれ陽性である。

発がん性

IARC (1995) で 2B、ACGIH (1992 (ACGIH-TLV (2009)) で A3、産衛学会 (2008) で 2B に分類されていることから、区分 2 とした。動物試験では、ラットおよびマウスを用いた 104 週間経口投与試験において、

ラットの雄に口腔の扁平上皮癌と扁平上皮乳頭腫、雌に口腔と食道の扁平上皮癌の発生が認められ、マウスにおいても、雌雄に口腔と前胃の扁平上皮癌と扁平上皮乳頭腫、食道と喉頭に扁平上皮癌、雌の食道に扁平上皮乳頭腫が認められている（厚生労働省がん原性試験（1995）；NITE 初期リスク評価書 No.60（2005））。ラットおよびマウスを用いた2年間吸入暴露試験においては、ラットの雄に鼻腔の乳頭腫および扁平上皮癌、雌に鼻腔の扁平上皮癌と喉頭の扁平上皮癌が認められ、マウスでは、雄に肺の扁平上皮癌がみられている

（NITE 初期リスク評価書 No.60（2005））。厚生労働省では健康障害を防止するための指針を出している（厚生労働省指針（2006））。

生殖毒性

ラットを用いた経口投与による2世代生殖毒性試験では、仔の体重増加抑制と妊娠率のわずかな低下（再現性無し）がみられるのみ（CERI・NITE 有害性評価書（2006）、ATSDR（2009））であり、マウスを用いた経口投与による生殖毒性試験においては精巣の相対重量減少（病理組織学的変化無し、用量依存性無し）がみられるのみ（ATSDR（2009））である。ラットを用いた吸入暴露による発生毒性試験では母動物に体重増加抑制、肺のうっ血がみられる用量で胎仔に体重減少、頭臀長短縮、骨化遅延がみられるが、これは母体毒性による2次的影響であるとの記載がある（ATSDR（2009））。その他生殖毒性試験、発生毒性試験において、母動物または仔の体重増加抑制以外影響は認められず（CERI・NITE 有害性評価書（2006）、ATSDR（2009））、区分外とした。

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

ヒトについては、ボランティアによる吸入暴露試験において「呼吸器に対する刺激性が認められた」（CERI・NITE 有害性評価書（2006））、「鼻と喉を刺激する」（ATSDR（1992））との記載、動物試験では、ラットを用いた経口投与試験において「不活発」（DFGOT vol.21（2005））、ウサギを用いた吸入暴露試験において「中枢神経系の抑制」（NITE 初期リスク評価書 No.60

(2005))との記載がある。また、ヒトに対する影響として「粘膜、皮膚を刺激し、高濃度でばく露されると麻酔作用がある」(厚労省指針(2005))との記述があることから、区分3(気道刺激性、麻酔作用)とした。

"特定標的臓器毒性(反復ばく露)

ラットを用いた2年間吸入暴露試験において「鼻腔上皮の扁平上皮化生と萎縮、基底細胞の過形成」、マウスを用いた13週間吸入暴露試験において「巣状肺炎と鼻炎」(CERI・NITE有害性評価書(2006))、マウスを用いた2年間吸入暴露試験において「鼻腔嗅上皮の萎縮、粘液分泌腺の萎縮」(いずれもCERI・NITE有害性評価書(2006))との記載があることから、上気道を中心とした呼吸器が標的臓器と考えられる。なお、実験動物に対する影響はすべて用量200ppm(区分2のガイダンス値の範囲)からみられた。以上より、分類は区分2(呼吸器)とした。

吸引性呼吸器有害性

データなし。

1.2. 環境影響情報

水生環境有害性(急性)

区分2：酢酸ビニル(0.006%) 2.39mg/L
区分外：エチレングリコール(0.2%) 101mg/L

分類できない：二酸化ケイ素(18.2%)、エチレン・酢酸ビニルの共重合体(5.6%)、水(8%)、メチルセルロース(0.1%)、ポートルランドセメント、アルミナセメント、スラグセメント、スーパーサルフェートセメントその他これらに類する水硬性セメント(着色してあるかないか又はクリンカー状であるかないかを問わない。)(68%)

分類結果は水生環境有害性(急性)一区分外となるが、分類できない成分が99.9%含まれるため水生環境有害性(急性)一分類できないとした。

水生環境有害性(長期間)

区分外：酢酸ビニル(0.006%)、エチレングリコール(0.2%)

分類できない：二酸化ケイ素(18.2%)、エチレン・酢酸ビニルの共重合体(5.6%)、水(8%)、メチルセルロース(0.1%)、ポートルランドセメント、ア

ルミナセメント、スラグセメント、スーパーサルフェートセメントその他これらに類する水硬性セメント（着色してあるかないか又はクリンカー状であるかないかを問わない。）（68%）

分類結果は水生環境有害性（長期間）－区分外となるが、分類できない成分が99.9%含まれるため水生環境有害性（長期間）－分類できないとした。

生態毒性

情報なし

オゾン層への有害性

分類できない：酢酸ビニル（0.006%）、エチレングリコール（0.2%）、二酸化ケイ素（18.2%）、エチレン・酢酸ビニルの共重合体（5.6%）、水（8%）、メチルセルロース（0.1%）、ポートランドセメント、アルミナセメント、スラグセメント、スーパーサルフェートセメントその他これらに類する水硬性セメント（着色してあるかないか又はクリンカー状であるかないかを問わない。）（68%）

データなし

二酸化ケイ素として

水生環境有害性（急性） データがなく分類できない。

水生環境有害性（長期間） データがなく分類できない。

エチレングリコールとして

水生環境有害性（急性） 魚類（ヒメダカ）の96時間LC50>100mg/L（環境省生態影響試験、2001）他から、区分外とした。

水生環境有害性（長期間） 難水溶性でなく（水溶解度=1.00×106mg/L（PHYSPROP Database、2005））、急性毒性が低いことから、区分外とした。

残留性・分解性 （分解性）易分解性（既存化学物質安全性点検）

酢酸ビニルとして

"水生環境有害性（急性） 魚類（ヒメダカ）での96時間LC50=2.39 mg/L（NITE初期リスク評価書、2005）であることから、区分2とした。

"水生環境有害性（長期間）

急速分解性があり（BODによる分解度：90%（既存点検、1988））、かつ生物蓄積性が低いと推定される（log Kow=0.73（PHYSPROP Database、2009））ことから、区分外とした。

1.3. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。

"強アルカリ性であるため、酸で中和した後処理すること。

強酸性であるため、アルカリで中和した後処理すること。

水溶液は、強アルカリ性を示すため酸で中和した後処理すること。

水溶液は、強酸性を示すためアルカリで中和した後処理すること。

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。

特別管理産業廃棄物のため、廃棄においては特に「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の特別管理産業廃棄物処理基準に従うこと。

本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。高圧ガスを廃棄する場合は、高圧ガス保安法一般高圧ガス保安規則の規定に従うこと。

火薬類を廃棄する場合は、火薬類取締法、火薬類取締法施行規則の規定に従うこと。

汚染容器及び包装

容器は清浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

高圧ガスの容器を廃棄する場合は、製造業者等専門業者に回収を依頼すること。

スプレー缶を廃棄する場合は、自治体により廃棄方法が異なるので該当する自治体の規定に従うこと。

1 4. 輸送上の注意

国際規制	海上規制情報	該当しない
	Marine Pollutant	Not applicable
	Transport in bulk according to MARPOL 73/78,Annex II,and the IBC code	Not applicable
航空規制情報	該当しない	
国内規制	陸上規制	該当しない
	海上規制情報	該当しない
	海洋汚染物質	非該当
	MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質	非該当
航空規制情報	該当しない	
緊急時応急措置指針番号	なし	

1 5. 適用法令

化審法	優先評価化学物質（法第2条第5項）
労働安全衛生法	名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2、施行令第18条の2別表第9）
消防法	非危険物
大気汚染防止法	有害大気汚染物質に該当する可能性がある物質（中央環境審議会第9次答申）揮発性有機化合物（法第2条第4項）（環境省から都道府県への通達）
海洋汚染防止法	危険物（施行令別表第1の4）
有害でない物質（施行令別表第1の2）	有害液体物質（Y類物質）（施行令別表第1）
外国為替及び外国貿易法	輸出貿易管理令別表第1の16の項
特定有害廃棄物輸出入	
規制法（バーゼル法）	廃棄物の有害成分・法第2条第1項第1号イに規定するもの（平10三

じん肺法

16. その他の情報

連絡先

その他

省告示1号)

法第2条、施行規則第2条別表粉じん作業

情報なし

注意：記載した内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しており、以上の情報は新しい知見により、改訂される場合があります。

また、注意事項は通常の実施を対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には用途、用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。本製品を使用するに当たって、提供された情報を適用するかどうかの最終的な決定は使用者の責任で行って下さい。

全ての物質は未知の危険性を呈する可能性があり、ここで示した危険性は起こり得る全ての危険性を網羅したものであるということを保証するものではありません。

以上は情報提供であり、本情報による指示に従って本物質が取扱われていようといまいと、本物質の取扱いによって生じる損害等の結果に対する責任については一切責任を負いません。